

## (第103回定時株主総会) 株主総会参考書類

- 第1号議案 剰余金の配当の件
- 第2号議案 取締役5名選任の件
- 第3号議案 監査役1名選任の件
- 第4号議案 当社株式の大規模買付行為等に関する対応策（買収防衛策）の導入並びに当該買収防衛策の導入に伴う現行の特定の株主グループを対象とした当社株式の大規模買付行為等及び濫用的株主権行使への対応策（買収防衛策）の廃止の件

# 乾汽船株式会社

証券コード：9308

# 株主総会参考書類

---

## 議案及び参考事項

### 第1号議案

### 剰余金の配当の件

当期の期末配当につきましては、当期の業績と今後の事業展開等を総合的に勘案し、下記のとおりといたしたいと存じます。

1. 配当財産の種類  
金銭
2. 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金178円 総額4,458,807,974円  
(年間配当金は、1株につき中間配当金6円を含め、合計184円となります。)
3. 剰余金の配当が効力を生じる日  
2023年6月23日

## 第2号議案

## 取締役5名選任の件

取締役全員（5名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役5名の選任をお願いするものであります。なお、本議案につきましては、あらかじめ指名・報酬委員会での審議及び答申を経ております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名       |          |          | 現在の当社における<br>地位及び担当  | 在任期間<br>(本総会終結時) |    |    |      |
|-------|----------|----------|----------|----------------------|------------------|----|----|------|
| 1     | いぬい<br>乾 | やす<br>康  | ゆき<br>之  | 代表取締役社長<br>(指名・報酬委員) | 17年4ヶ月           | 再任 |    |      |
| 2     | いぬい<br>乾 | たか<br>隆  | し<br>志   | 取締役<br>専務執行役員        | 8年8ヶ月            | 再任 |    |      |
| 3     | かん<br>神  | ばやし<br>林 | のぶ<br>伸  | 社外取締役<br>(指名・報酬委員長)  | 6年               | 再任 | 社外 | 独立役員 |
| 4     | むら<br>村  | かみ<br>上  | しょう<br>章 | 社外取締役<br>(指名・報酬委員)   | 2年               | 再任 | 社外 | 独立役員 |
| 5     | いわ<br>岩  | た<br>田   | けん<br>研  | 社外取締役                | 1年               | 再任 | 社外 | 独立役員 |

候補者番号 1

いぬい  
乾

やす  
康

ゆき  
之

(1968年12月5日生)

再任



所有する当社株式の数  
164,926株  
在任年数  
17年4ヶ月  
取締役会出席回数  
18回中18回

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

2004年4月 当社入社  
2006年2月 同常務取締役不動産本部長兼物流本部企画部長  
2007年12月 同常務取締役管理本部長室長  
2008年2月 同代表取締役専務取締役  
2008年12月 同代表取締役社長  
2013年5月 同代表取締役社長物流事業部門担当  
2015年4月 同代表取締役社長コーポレート部門担当  
2016年4月 同代表取締役社長（現任）

#### 取締役候補者とした理由

乾康之氏は、2004年に当社入社後、当社の事業領域の全てを経験し、2014年の旧乾汽船株式会社との経営統合以降は、事業施策の立案・推進を中心に外航海運事業にも参画しております。現在も当社の事業領域の全般に亘り執行し、当社グループの主要プロジェクトを掌握・管理しております。2008年12月以降、代表取締役社長として当社の経営を担い、倉庫、運送、不動産、金融、海運の分野に幅広い人脈を有し、当社グループ事業に関する豊富な業務経験と知見を有しており、今後も当社グループの成長に必要な不可欠であると判断したことから、引き続き取締役候補者としております。

候補者番号 2

いぬい  
乾

たか  
隆

し  
志

(1970年12月20日生)

再任



所有する当社株式の数  
376,020株  
在任年数  
8年8ヶ月  
取締役会出席回数  
18回中18回

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

2007年 8月 旧乾汽船株式会社入社  
2007年 8月 株式会社商船三井出向  
2012年 6月 旧乾汽船株式会社取締役経営管理部長  
2014年 6月 同代表取締役社長  
2014年10月 当社取締役専務執行役員海運事業部門担当  
2016年 4月 同取締役専務執行役員（現任）  
2017年 3月 イヌイ運送株式会社代表取締役社長（現任）

#### 重要な兼職の状況

イヌイ運送株式会社代表取締役社長

#### 取締役候補者とした理由

乾隆志氏は、旧乾汽船株式会社代表取締役社長を務めていたことから、海運事業経営に関する知見を有しております。2014年10月より取締役専務執行役員として当社の経営を担うとともに、2017年には当社グループのイヌイ運送株式会社の代表取締役社長も兼任し、ロジスティクスにおける業務経験と知見も有しております。また、グループ経営全般に亘り、代表取締役社長の補佐役を務めており、今後も当社グループの成長に必要な不可欠であると判断したことから、引き続き取締役候補者としております。

候補者番号 3

神 林 伸 光 (1948年5月28日生)

再任

社外

独立役員



所有する当社株式の数

4,647株

在任年数

6年

取締役会出席回数

18回中18回

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1971年4月 川崎重工業株式会社入社  
1998年4月 同船舶事業本部営業本部商船営業部長  
2008年4月 同常務執行役員営業推進本部長兼株式会社川崎造船取締役副社長  
2010年4月 株式会社川崎造船代表取締役社長  
兼川崎重工業株式会社常務取締役（非常勤）  
2010年10月 川崎重工業株式会社代表取締役常務取締役  
船舶海洋カンパニープレジデント  
2013年6月 同特別顧問  
2015年6月 一般財団法人日本船舶技術研究協会理事長（現任）  
2016年3月 東海カーボン株式会社社外取締役（現任）  
2017年6月 当社社外取締役（現任）

#### 重要な兼職の状況

一般財団法人日本船舶技術研究協会理事長

東海カーボン株式会社社外取締役

#### 社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要

神林伸光氏は、造船企業において長年経営者としてリーダーシップを発揮してきた実績に加え、他社の社外取締役としての経験もあり、広い人脈及び企業経営に関する豊富な経験を有しております。同氏が社外取締役に選任された場合は、それらの知見を当社経営に反映し、業務執行の監督や経営全般に関する助言等により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただくことを期待しております。また、昨年度に引き続き指名・報酬委員会の委員長として、適切なコーポレート・ガバナンスの維持・向上にも積極的に関与していただきたいと考えております。

#### 独立性に関する事項

- ・ 神林伸光氏は、一般財団法人日本船舶技術研究協会理事長及び東海カーボン株式会社社外取締役に務めておりますが、当社とこれらの法人の間に取引関係はございません。
- ・ 同氏は、当社の社外役員に関する独立性の基準を満たしております。

候補者番号 4

村上章二 (1956年1月12日生)

再任

社外

独立役員



所有する当社株式の数

1,388株

在任年数

2年

取締役会出席回数

18回中18回

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1978年 4月 日本郵船株式会社入社  
2007年 4月 同経営委員 物流グループ長  
2007年 6月 同経営委員兼郵船航空サービス株式会社(現郵船ロジスティクス株式会社)社外取締役  
2008年 4月 同経営委員兼郵船航空サービス株式会社(現郵船ロジスティクス株式会社)取締役執行役員  
2010年10月 郵船ロジスティクス株式会社取締役執行役員  
2011年 4月 同取締役常務執行役員  
2013年 4月 同代表取締役専務執行役員  
2017年 6月 同専務執行役員  
2019年 4月 同顧問  
2020年 1月 神原ロジスティクス株式会社社外取締役 (現任)  
2021年 4月 ツネイシCバリューズ株式会社顧問  
2021年 6月 当社社外取締役 (現任)  
2022年 1月 ツネイシCバリューズ株式会社社外取締役 (現任)

#### 重要な兼職の状況

神原ロジスティクス株式会社社外取締役  
ツネイシCバリューズ株式会社社外取締役

#### 社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要

村上章二氏は、海上運送業を中心とした総合物流事業を営む企業グループでの物流部門の立ち上げ及びその事業規模拡大という実績を持ち、ロジスティクス分野についての深い知見及び広い人脈に加え、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏が社外取締役に選任された場合は、それらの知見を当社経営に反映し、業務執行の監督や経営全般に関する助言等により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただくことを期待しております。また、昨年度に引き続き指名・報酬委員会の委員として、適切なコーポレート・ガバナンスの維持・向上にも積極的に関与していただきたいと考えております。

#### 独立性に関する事項

- ・ 村上章二氏は、神原ロジスティクス株式会社社外取締役、ツネイシCバリューズ株式会社社外取締役を務めておりますが、当社とこれらの会社の間に取引関係はございません。
- ・ 同氏は、当社の社外役員に関する独立性の基準を満たしております。

候補者番号5

いわ たち けん いち  
**岩 田 研 一** (1955年8月4日生)

再任

社外

独立役員



所有する当社株式の数

553株

在任年数

1年

取締役会出席回数

15回中15回

#### 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

1979年4月 三菱地所株式会社 入社  
2009年4月 同執行役員 リーシング営業部長  
2011年4月 同執行役員兼三菱地所ビルマネジメント株式会社取締役社長  
2013年4月 同常務執行役員兼三菱地所ビルマネジメント株式会社取締役社長  
2014年4月 同常務執行役員兼三菱地所プロパティマネジメント株式会社代表取締役社長執行役員  
2015年4月 同常務執行役員 大阪支店担当  
2016年4月 同専務執行役員 関西支店担当  
2016年6月 同執行役専務 関西支店担当  
2020年4月 同顧問  
2020年6月 株式会社横浜スカイビル代表取締役社長（現任）  
2022年6月 当社社外取締役（現任）

#### 重要な兼職の状況

株式会社横浜スカイビル代表取締役社長

#### 社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要

岩田研一氏は、総合デベロッパーでのオフィスのリーシング活動及びプロパティマネジメントの実績を持ち、当該分野についての深い知見及び広い人脈に加え、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏が社外取締役に選任された場合は、それらの知見を当社経営に反映し、業務執行の監督や経営全般に関する助言等により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただくことを期待しております。

#### 独立性に関する事項

- ・岩田研一氏は、株式会社横浜スカイビル代表取締役社長を務めておりますが、当社と同社の間に取引関係はございません。
- ・同氏は、当社の社外役員に関する独立性の基準を満たしております。



- 
- (注) 1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 神林伸光、村上章二、岩田研一の3氏は、社外取締役候補者であります。なお、当社は、神林伸光、村上章二及び岩田研一の3氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
3. 社外取締役候補者との責任限定契約について  
神林伸光、村上章二及び岩田研一の3氏は、当社との間で、会社法第427条第1項及び当社定款第32条の規定により、会社法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を、法令の定める最低責任限度額とする責任限定契約をそれぞれ締結しており、3氏の選任が承認された場合、当該契約を継続する予定であります。
4. 取締役候補者との補償契約について  
乾康之、乾隆志、神林伸光、村上章二、岩田研一の5氏は、当社との間で、会社法第430条の2第1項に規定する補償契約をそれぞれ締結しており、同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。  
当社は、上記5氏の選任が承認された場合、当該補償契約を継続する予定であります。
5. 取締役候補者を被保険者とする役員等賠償責任保険契約について  
当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者がその地位に基づいて行った行為に起因して、保険期間中に被保険者に対して損害賠償請求がされた場合の法律上の損害賠償金及び争訟費用を填補することとしております。  
各取締役候補者の選任が承認された場合、各氏は当該保険契約の被保険者となります。なお、当該保険契約の保険料は、全額当社が負担しております。また、当社は、当該保険契約を任期途中に同様の内容で更新することを予定しております。

### 第3号議案

## 監査役1名選任の件

監査役山田治彦氏は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役1名の選任をお願いするものであります。なお、本議案につきましては、あらかじめ指名・報酬委員会での審議及び答申を経ております。

また、本議案につきましては監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 氏名                    | 現在の当社における<br>地位 | 在任期間<br>(本総会終結時) |            |
|-----------------------|-----------------|------------------|------------|
| やま だ はる ひこ<br>山 田 治 彦 | 社外監査役           | 4年               | 再任 社外 独立役員 |

やま だ はる ひこ  
**山 田 治 彦** (1956年9月27日生)

**再任** **社外** **独立役員**



所有する当社株式の数

0株

在任年数

4年

取締役会出席回数

18回中18回

監査役会出席回数

13回中13回

#### 略歴、地位及び重要な兼職の状況

1980年 9月 東京商科学院講師  
1982年 2月 監査法人井上達雄会計事務所（現有限責任あずさ監査法人）入所  
1991年 9月 井上斎藤英和監査法人（現有限責任あずさ監査法人）社員  
1993年10月 朝日監査法人（現有限責任あずさ監査法人）社員  
2003年 7月 有限責任あずさ監査法人代表社員  
2013年 7月 日本公認会計士協会副会長  
2013年 7月 一般財団法人会計教育研修機構理事  
2016年 7月 公益財団法人財務会計基準機構理事  
2019年 6月 当社社外監査役（現任）  
2019年 7月 山田治彦公認会計士事務所所長（現任）  
2021年 6月 株式会社東京証券取引所社外監査役（現任）  
2022年 4月 株式会社 J P X 総研社外監査役（現任）

#### 重要な兼職の状況

山田治彦公認会計士事務所 所長  
株式会社東京証券取引所 社外監査役  
株式会社 J P X 総研 社外監査役

#### 社外監査役候補者とした理由

山田治彦氏は、公認会計士としての専門的な見識を有しております。同氏が監査役に選任された場合は、その知見を当社の監査に活かし、社外監査役として監査・監督機能を十分に発揮し、職務を適切に遂行していただけるものと判断し、社外監査役候補者としております。

なお、同氏は過去に社外監査役になること以外の方法で直接会社経営に関与した経験はありませんが、上記理由により、社外監査役として、その職務を適切に遂行できるものと判断しております。

#### 独立性に関する事項

- ・山田治彦氏は、山田治彦公認会計士事務所の所長及び株式会社 J P X 総研の社外監査役を務めておりますが、当社とこれらの法人の間に取引関係はございません。
- ・同氏は、株式会社東京証券取引所の社外監査役を務めております。当社は東京証券取引所に株式を上場していることから、計4百万円未満の年間上場料等の支払の取引関係がございますが、金額及び内容に照らして、一般株主と利益相反を生ずるおそれはないと判断しております。
- ・同氏は、当社の社外役員に関する独立性の基準を満たしております。

- 
- (注) 1. 山田治彦氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 山田治彦氏は、社外監査役候補者であります。なお、当社は同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
3. 監査役候補者との責任限定契約について  
山田治彦氏は、当社との間で、会社法第427条第1項及び当社定款第43条の規定により、会社法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を、法令の定める最低責任限度額とする責任限定契約を締結しており、同氏の選任が承認された場合、当該契約を継続する予定であります。
4. 監査役候補者との補償契約について  
山田治彦氏は、当社との間で、会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を締結しており、同項第1号の費用及び同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。同氏の選任が承認された場合、当該補償契約を継続する予定であります。
5. 監査役候補者を被保険者とする役員等賠償責任保険契約について  
当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者がその地位に基づいて行った行為に起因して、保険期間中に被保険者に対して損害賠償請求がされた場合の法律上の損害賠償金及び争訟費用を填補することとしております。  
監査役候補者の選任が承認された場合、同氏は当該保険契約の被保険者となります。なお、当該保険契約の保険料は、全額当社が負担しております。また、当社は、当該保険契約を任期中に同様の内容で更新することを予定しております。

(ご参考) 取締役・監査役のスキルマトリックス

当社は、持続的な成長に向けた実効性ある企業統治体制を確立するため、幅広い業務経験及び多岐にわたる専門性、知識を有する取締役候補者・監査役候補者を選任しております。取締役候補者及び監査役候補者につき、原案どおりすべてご選任いただいた場合の、取締役・監査役のスキルマトリックスは以下のとおりです。

| 氏名  | 分類   |        | 専門性と経験 |        |         |       |       |             |       |
|-----|------|--------|--------|--------|---------|-------|-------|-------------|-------|
|     |      |        | 企業経営   | 外航海運事業 | 倉庫・運送事業 | 不動産事業 | グローバル | 法務・コンプライアンス | 財務・会計 |
| 取締役 | 乾 康之 | 代表 社長  | ●      | ●      | ●       | ●     |       |             |       |
|     | 乾 隆志 | 専務     | ●      | ●      | ●       |       |       |             |       |
|     | 神林伸光 | 社外(独立) | ●      | ●      |         |       | ●     |             |       |
|     | 村上章二 | 社外(独立) | ●      |        | ●       |       | ●     |             |       |
|     | 岩田研一 | 社外(独立) | ●      |        |         | ●     |       |             |       |
| 監査役 | 渡來義規 | 社外(独立) | ●      |        | ●       |       | ●     |             |       |
|     | 山田治彦 | 社外(独立) |        |        |         |       |       |             | ●     |
|     | 清水 豊 | 社外(独立) |        |        |         |       |       | ●           |       |
|     | 上野祐二 |        |        |        | ●       |       |       | ●           |       |

- (注) 1. 監査役候補者の山田治彦氏は、公認会計士資格を有しております。また、監査役の水野豊氏は、弁護士資格を有しております。
2. 監査役の水野豊氏は2021年6月23日開催の第101回定時株主総会にて、同じく渡來義規氏及び上野祐二氏は2022年6月22日開催の第102回定時株主総会にて、それぞれ監査役選任の決議をいただいております。現在在任期間中です。
3. 各人の有する専門性と経験のうち、主なもの最大4つに●印をつけています。

(ご参考) 社外取締役及び社外監査役の独立性基準

当社では、社外取締役及び社外監査役（以下、総称して「社外役員」という。）が東京証券取引所の定める独立性基準に加え、次のいずれにも該当しない場合、独立性を有している者と判断しております。

また、次のいずれかに該当する者であっても、当該人物が東京証券取引所で定める独立性基準を充足し、当社が独立性を有する社外役員として相応しいと判断する場合は、判断する理由を対外的に示した上で例外的に独立性を有する社外役員候補者として選任することができるしております。

1. 当社及び当社の連結子会社（以下、「当社グループ」という。）に業務執行取締役、執行役員その他の使用人（以下、「業務執行取締役等」という。）として所属したことがある者
2. 当社の株式を自己又は他者の名義をもって総議決権の10%以上の議決権を有する株主又は当該株主が法人、組合等の団体（以下、「法人等」という。）である場合は当該法人等に所属する業務執行取締役等
3. 次のいずれかに該当する者
  - (1) 当社グループの主要な取引先（直近事業年度における当社グループとの取引額が当社グループ年間連結売上高の2%を超える者）又は当該取引先が法人等である場合は当該法人等に所属する業務執行取締役等
  - (2) 当社グループを取引先とする者で、直近事業年度における当社グループとの取引額がその者の年間連結売上高の2%を超える者又は当該者が法人等である場合は当該法人等に所属する業務執行取締役等
  - (3) 当社グループの主要な借入先（直近事業年度末の借入残高が当社グループ連結総資産の2%を超える者）又は当該借入先が法人等である場合は当該法人等に所属するその業務執行取締役等
  - (4) 当社グループが総議決権の10%以上の議決権を有する法人の業務執行取締役等
4. 当社グループの会計監査人である監査法人に所属する公認会計士
5. 当社グループから役員報酬以外に過去3年間の平均で年間10百万円を超える金銭その他の財産上の利益を得ているコンサルタント、弁護士、公認会計士その他専門的サービスを提供する者又は当該者が法人等である場合は当該法人等に所属するこれらの専門家
6. 当社グループから過去3年間の平均で年間10百万円を超える寄付・助成を受けている者又は当該者が法人等である場合は当該法人等に所属する業務執行取締役等
7. 当社グループの業務執行取締役、執行役員が他の会社の社外取締役を兼任している場合において、当該他の会社の業務執行取締役等
8. 上記1から7までのいずれかに該当する者の配偶者又は二親等以内の親族
9. 過去3年間に於いて、上記2から8までのいずれかに該当したことがある者

**当社株式の大規模買付行為等に関する対応策（買収防衛策）の導入並びに当該買収防衛策の導入に伴う現行の特定の株主グループを対象とした当社株式の大規模買付行為等及び濫用的株主権行使への対応策（買収防衛策）の廃止の件**

当社は、2021年5月14日開催の当社取締役会において、特定の株主グループを対象とした当社株式の大規模買付行為等及び濫用的株主権行使への対応策（買収防衛策）（以下「現行プラン」といいます。）を導入することを決議し、2021年6月23日に開催された当社の第101回定時株主総会において、株主の皆様よりご承認をいただきました。

現行プランの有効期間は、2024年6月開催予定の第104回定時株主総会の終結時までとなっておりますが、当社は、現行プランの導入後も、中長期的に企業価値ないし株主の皆様の共同の利益を向上させる観点から、国内外の機関投資家をはじめとする株主の皆様のご意見、買収防衛策を巡る近時の動向や法整備の状況、当社株主構成を含め、当社を取り巻く経営環境の変化とその影響等も踏まえ、現行プランの取扱いについて慎重に検討を継続してまいりました。

その結果、当社としましては、アルファレオホールディングス合同会社（以下「アルファレオ」といいます。）を含む特定の株主グループ（以下「特定株主グループ<sup>1</sup>」）といいます。）のみを対象とした現行プランを維持する意義が現行プラン導入時と比較して低下しているため、現行プランを廃止し、新たに、適用対象者を限定しない対応策（買収防衛策）を導入することが、当社の中長期的な企業価値の向上及び株主の皆様の共同の利益に適うものと考えるに至り、当該対応策の導入について当社独立委員会（下記2. (1)⑤に定義されます。以下同じ）に

<sup>1</sup> 現行プランの対象となる「特定株主グループ」とは、①アルファレオ、②アルファレオ株式会社、アルファレオキャピタルアドバイザーズリミテッド、MAM Pte. Limited、Makis Holdings B.V.、株式会社マキス、牧寛之、牧大介、牧廣美、山中真人、株式会社メルコホールディングス、メルコフィナンシャルホールディングス株式会社、メルコインベストメンツ株式会社、③上記①若しくは②の役員、従業員若しくはそのアドバイザー又はその共同保有者若しくは特別関係者、④当社取締役会が、独立委員会の勧告を経て、上記①乃至③に該当する者の「関係者」（上記①乃至③に該当する者から市場外の相対取引若しくは東京証券取引所の市場内立会外取引（ToSTNeT-1）（但し、公開買付けによる場合を除く。）により当社株式を譲り受けた者、これらの者（上記①乃至③に該当する者を含みます。以下本脚注において同じ）との間にフィナンシャル・アドバイザー契約ないし公開買付代理人契約を締結している投資銀行、証券会社その他の金融機関その他これらの者と実質的利害を共通にしている者、又はこれらの者が実質的に支配し、若しくはこれらの者と共同ないし協調して行動する全ての者をいいます。なお、組合その他のファンドに係る「関係者」の判断においては、ファンド・マネージャーの実質的同一性その他の諸事情を勘案するものとします。）に該当すると合理的に認定した者のいずれかに該当する者をいいます。

---

対して諮問し、同委員会の委員全員の賛同を得たため、2023年5月12日開催の当社の取締役会において、本総会において株主の皆様よりご承認いただくことを条件として、本総会の終結時をもって、現行プランを廃止し、かつ、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針（会社法施行規則第118条第3号柱書に定義されるものをいい、以下「基本方針」といいます。）、並びに基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（会社法施行規則第118条第3号口(2)）の一つとして、新たに、当社株式の大規模買付行為等に関する対応策（買収防衛策）（以下「本プラン」といいます。）を導入することを決議いたしました。本プランの有効期間は、本総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。当社が、本総会において株主の皆様にご承認いただくことを条件として、本総会の終結時をもって現行プランを廃止すること、及び本プランを導入することを決議するに至った経緯及び理由については、下記Ⅲ. 1.をご参照ください。

本プランの導入につきましては、上記取締役会において、独立社外取締役3名を含む当社取締役5名全員の賛成によって承認されるとともに、独立社外監査役3名を含む当社監査役4名全員が出席し、異議がない旨の意見が表明されております。

つきましては、株主の皆様にご承認をお願いするものであります。

なお、本議案について株主の皆様のご承認が得られない場合には、現行プランは廃止されず、有効期間（2024年6月開催予定の当社第104回定時株主総会の終結時まで）満了まで有効に存続することとなります。

また、今後、会社法及び金融商品取引法その他の法令、それらに関する規則、政令、内閣府令及び省令等並びに当社の株式等が上場されている金融商品取引所の規則等（以下、総称して「法令等」といいます。）に改正（法令等の名称の変更や旧法例等を承継する新法令等の制定等を含みます。以下同じ）があり、これらが施行された場合には、本プランにおいて引用する法令等の各条項は、当社取締役会が別途定める場合を除き、当該改正後のこれらの法令等の各条項を実質的に承継する法令等の各条項に、それぞれ読み替えられるものとします。



---

本プランの内容については、次項以下をご参照ください。

## 記

### I. 当社の経営権を有すべき者の在り方に関する基本方針 (当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針)

当社は、当社の経営権を有すべき者は、株主の皆様を含むステークホルダーとの調和を重んじ、株主の責任ある投資に適う事業活動を通じて、永続的な企業価値向上を目指す者であると考えております。そして、経営権を有する者かどうかの信任は、株主の皆様の総意に基づき決定されるべきと考えます。この考えを前提とし、当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、会社の支配権の移転を伴う特定の者による当社株式の大規模買付けであっても、当社の中長期的な企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。しかしながら、大規模買付けの中には、当社の中長期的な企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益に資さない、専ら自身の短期的な利得のみを目的とするようなものや明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、対象会社の株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるものも少なからず存在し、当社は、そのような当社株式の大規模買付けを行う者については、当社の経営権を有すべき者として不適切であると考えております。さらに、大規模買付けの中には、対象会社の株主や取締役会が買付けや買収提案の内容等について検討し、対象会社の取締役会が代替案を提示するために合理的に必要な期間・情報を与えないものや、対象会社の企業価値を十分に反映しているとはいえないもの等も見受けられますが、それらの大規模買付けに対して有効に対抗することは必ずしも容易ではありません。当社は、このような当社の中長期的な企業価値及び株主の皆様の共同の利益を毀損するおそれのある当社株式の大規模買付けを行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。そのため、このような者による当社株式の大規模買付けに対しては、予めその買付けに必要な手続を定め、また、大規模買付けを行おうとする者にその遵守を要求することで、当社の

---

中長期的な企業価値及び株主の皆様の共同の利益を確保する必要があると考えております。

## Ⅱ. 基本方針の実現に資する特別な取組み

### 1. 当社の企業理念及び企業価値の源泉

当社は、創業の祖を同一とする外航海運事業を営む旧乾汽船株式会社と倉庫事業・不動産事業を営む旧イヌイ倉庫株式会社が、2014年10月に経営統合したことにより現在の形態となりました。旧乾汽船株式会社は1949年神戸証券取引所に、旧イヌイ倉庫株式会社は1961年東京証券取引所市場第二部に上場して以来、社会の公器として永続してまいりました。以降、様々な事業環境の変化があり、都度、業態業容に変化がございましたが、社会の一員として広く株主の皆様を含むステークホルダーのご愛顧により今日の当社があります。

運賃市況ボラティリティの大きい外航海運事業と、中長期の視点で景気波動の異なる倉庫事業及び不動産事業という3つの事業セグメントを適切に組み合わせることにより、可変性のある資産ポートフォリオを形成することで、事業の基盤を支え、競争力の源としていくことが、当社のユニークさであり、今も今後も経営の差別化戦略の源泉と考えております。

当社は、経営の基本方針として以下の3点を定めております。

#### ① 資産の力を事業の力に

未来に向かって進化を続ける勝どき・月島は施設賃貸業の適地であり、当社の安定収益と財務基盤を支えます。この優良な資産がさらに成長する機会が到来します。再開発の期間は事業が資産を支えます。強化される資産の力は更に強い基盤となります。

#### ② FUN to WORK

やりがい×いきがい=FUN、としました。そもそも小さい会社です。ヒトとヒトとが支え合って、助け合って此処まで来ました。新しい働き方や、Digitalの力もうまく使っていきますが、ひとり一人のニンゲン力、これからも大切にしていきます。

---

### ③ 「らしさ」の追求

われらの「らしさ」は、実業に向き合い、地道な努力を練り込みながら生まれます。「らしさ」は差別化の源です。他と違うことを恐れず、素直に独自性を追求する、それがわれらの不易流行です。

上記のとおり、当社は、長期的な視点にたって上記経営の基本方針を着実に遂行していくことが、当社の中長期的な企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の確保・向上に資するものと考えております。

## 2. 中期経営計画に基づく企業価値向上への取組み

上記経営の基本方針の遂行に当たり、当社は、2023年度から2025年度までを対象年度とする中期経営計画を策定・公表し、同計画に基づき、以下のとおり、3つの事業領域とコーポレート部門の充実に向けた各種施策に取り組んでおります。詳細につきましては、2023年4月3日付けで公表しております「『中期経営計画 不易流行』策定に関するお知らせ」<sup>2</sup>をご参照ください。

- ① 外航海運事業           ：長期的に「よくはこぶ」Handy船隊運営
- ② 倉庫・運送事業       ：「Basic」+「Advance」
- ③ 不動産事業            ：勝どき・月島 3街区を連携させる「住まう」街づくり

## 3. コーポレートガバナンスに関する取組み

当社は、コーポレートガバナンス体制の構築に当たり、経営の健全性、透明性、効率性を継続的に高めていくことを重要な経営課題としており、経営責任の明確化及び株主の信任を毎年得ることによるコーポレートガバナンス体制の強化のため等の目的で取締役の任期を1年とす

---

<sup>2</sup> <https://ssl4.eir-parts.net/doc/9308/tdnet/2258553/00.pdf>

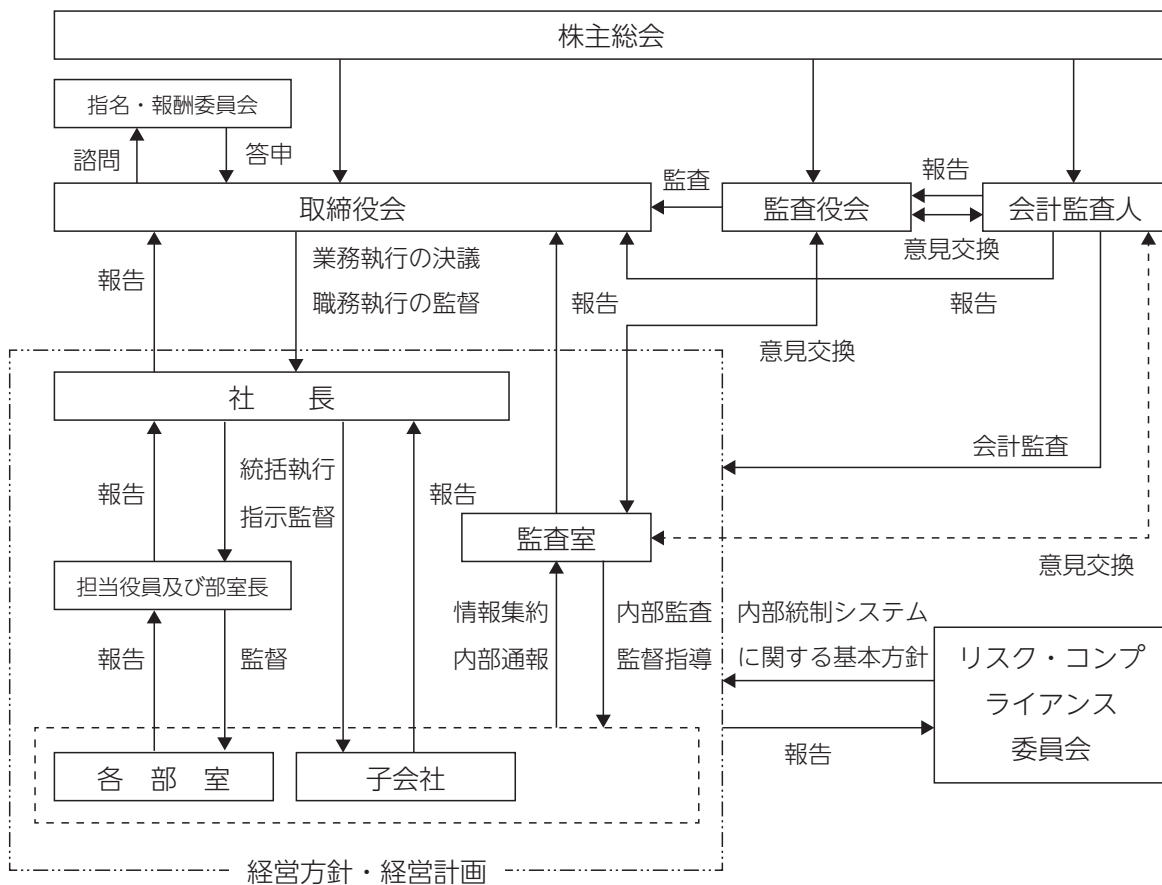
---

るとともに、監査役制度を基礎として、東京証券取引所の定める独立役員の要件を満たす社外取締役及び社外監査役を選任しております。

また、透明性の高い簡素でムダのない体制を前提とし、取締役会の監督機能の実効性を最大限高めるため、取締役5名のうち過半数に当たる3名を経営陣から独立した社外取締役としております。このような体制とする最大の理由は、執行部門における濃密なコミュニケーションとそれによる経営の意思決定の迅速性であり、その体制故に経営判断が拙速となる可能性を回避するとともに、取締役会の監督機能の実効性を高めることを意図しております。

さらに、独立社外取締役が過半数を占める任意の指名・報酬委員会を設置し（2017年度まで当社が任意で設置していた報酬委員会に、取締役の指名等に係る諮問機能を追加拡充して2018年度に設置したものです。社長1名、独立社外取締役2名（内1名が指名・報酬委員会委員長）で構成されております。）、取締役・監査役の選解任や社長の選解任の方針、報酬の方針及び内容等を審議・決定し、取締役会へ答申するなど、独立社外役員による経営監督を強化し、実効性あるコーポレートガバナンス体制の構築に努めております。

《ご参考・当社コーポレートガバナンス体制の模式図》



---

### Ⅲ. 本プランの内容（会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み）

#### 1. 本プランの目的

当社は、当社の中長期的な企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を毀損するおそれがアルファレオを含む特定株主グループとの関係において高まりつつある状況等を考慮し、特定株主グループによる大規模買付行為等及び濫用的株主権行使を対象とした現行プランの導入について、2021年5月14日開催の当社取締役会での決議を経て、2021年6月23日に開催された当社の第101回定時株主総会において、株主の皆様よりご承認をいただきました。

一方、現行プランの導入後も、当社は、中長期的に企業価値及び株主の皆様の共同の利益を向上させる観点から、国内外の機関投資家をはじめとする株主の皆様のご意見、買収防衛策を巡る近時の動向や法整備の状況、当社株主構成、当社を取り巻く経営環境の変化とその影響等も踏まえ、現行プランの取扱いについて慎重に検討を継続してまいりました。

また、現行プランの導入以降、アルファレオは保有株式を順次売却している模様であり、2021年3月31日時点では7,819,500株（当時の議決権比率：31.50%）もの当社株式を取得していたものの、2022年3月31日にアルファレオが提出した当社株式に関する大量保有報告書（当時の株式等保有割合（後記2.（1）①(i)に定義されます。以下同じ。）：4.37%）を最後に、アルファレオは当社株式に関する大量保有報告書を提出していないことから、本日現在、アルファレオの当社に対する株式等保有割合は5%未満となっていることが窺われます。さらに、アルファレオが当社に対して提起した訴訟（合計8件）は全て当社の勝訴又はアルファレオによる訴えの取下げ等により終結済みとなっております。

---

ります<sup>3</sup>。当社としては、上記の状況に鑑み、アルファレオを含む特定株主グループによる大規模買付行為等及び濫用的株主権行使が行われる蓋然性は、現行プランの導入時と比較して低下しており、特定株主グループのみを対象とした現行プランについては一定の役割を果たしたものと、現行プランを継続する必要性は相対的に低下しているとの判断に至りました。

他方で、現在においては持株比率15%を超える当社株主は存在しておらず当社株式は分散しているものの、今後市場内外において短期間に大量に当社株式が買い占められるリスクは必ずしも低いものではないと思料されることから、当社の中長期的な企業価値の向上及び株主の皆様のご利益のため、対象者を限定しない形で、当社株式の大規模買付行為等を防止するための対応策（買収防衛策）を導入することが必要であると判断いたしました。

なお、当社は、上記Ⅰ. のとおり、大規模買付者に対して、場合によっては何らかの措置を講ずる必要が生じ得るものと考えますが、上場会社である以上、大規模買付者に対して株式を売却するか否かの判断や、大規模買付者に対して会社の経営を委ねることの是非に関する最終的な判断は、基本的には、個々の株主の皆様のご意思に委ねられるべきものだと考えています。

しかしながら、株主の皆様にご適切な判断を行っていただくためには、その前提として、上記のような当社及び当社グループ固有の事業特性や当社及び当社グループの歴史を十分に踏まえていただいた上で、当社グループの企業価値とその価値を生み出している源泉につき適切な把握をしていただくことが必要であると考えます。そして、大規模買付者による当社の支配株式の取得が当社グループの企業価値やその価値の源泉に対してどのような

---

<sup>3</sup> アルファレオが当社に対して提起した訴訟（全8件）の詳細は、2021年5月14日付「特定の株主グループを対象とした当社株式の大規模買付行為等および濫用的株主権行使への対応策（買収防衛策）の導入ならびに当該買収防衛策の導入に伴う現行の当社株式の大規模買付行為等への対応策（買収防衛策）の廃止について」別紙2、同年4月8日付「株主総会決議取消訴訟の判決（勝訴）に関するお知らせ」、同年6月29日付「当社に対する控訴の提起に関するお知らせ」、同年7月5日付「訴えの取下げによる取締役解任請求訴訟の終了に関するお知らせ」、同年11月25日付「取締役解任請求訴訟の不適法却下判決（勝訴）に関するお知らせ」、同年12月17日付「株主総会決議取消訴訟（控訴審）の判決（勝訴）に関するお知らせ」、2022年1月14日付「株主による株主総会決議取消訴訟に係る当社に対する上告及び上告受理申立てに関するお知らせ」、同年5月20日付「監査役解任請求訴訟の判決（勝訴）に関するお知らせ」、及び同年9月16日付「株主による株主総会決議取消訴訟に係る当社に対する上告取下げ及び上告受理申立て取下げに関するお知らせ」をご参照ください。

---

影響を及ぼし得るかを把握するためには、大規模買付者から提供される情報だけでは不十分な場合も容易に想定され、株主の皆様に適切な判断を行っていただくためには、当社及び当社グループ固有の事業特性を十分に理解している当社取締役会から提供される情報並びに当該大規模買付者による支配株式の取得行為に対する当社取締役会の評価・意見や、場合によっては当社取締役会による新たな提案を踏まえていただくことが必要であると考えます。

したがって、当社といたしましては、株主の皆様に対して、これらの多角的な情報を分析し、検討していただくための十分な時間を確保することが非常に重要であると考えています。

以上の見地から、当社は、上記の基本方針を踏まえ、大規模買付者に対して事前に大規模買付行為等に関する必要な情報の提供及び考慮・交渉のための期間の確保を求めることにより、当該大規模買付行為等に応じるべきか否かを株主の皆様が適切に判断されること、当社取締役会が、独立委員会の勧告を受けて当該大規模買付行為等に対する賛否の意見又は当該大規模買付者が提示する買収提案や事業計画等に代替する事業計画等（以下、「代替案」といいます。）を株主の皆様に対して提示すること、あるいは、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とし、もって基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの一つとして、本プランの導入が必要であるとの結論に達しました。

以上の理由により、当社取締役会は、本総会において、本プランの導入に関する承認議案を付議することを通じて、株主の皆様のご意思を確認させていただくことを条件として、本プランの導入を決定しました。

なお、2023年3月31日現在における当社の大株主の状況は、別紙1「当社の大株主の株式保有状況」のとおりであり、現時点において、当社株式について具体的な大規模買付行為等の兆候があるとの認識はございません。



## 2. 本プランの内容

本プランは、以下のとおり、当社株式等の大規模買付行為等を行おうとする者が遵守すべきルールを策定すると共に、一定の場合には当社が対抗措置をとることによって大規模買付行為等を行おうとする者に損害が発生する可能性があることを明らかにし、これらを適切に開示することにより、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株式等の大規模買付行為等を行おうとする者に対して、警告を行うものです。

### (1) 本プランに係る手続

#### ① 対象となる大規模買付行為等

本プランは以下の(i)から(iii)までのいずれかに該当する若しくは該当する可能性がある当社株式等の買付け又はこれに類似する行為（ただし、当社取締役会が承認したものを除きます。当該行為を、以下、「大規模買付行為等」といいます。）がなされ、又はなされようとする場合を適用対象とします。大規模買付行為等を行い、又は行おうとする者（以下、「大規模買付者」といいます。）は、予め本プランに定められる手続に従わなければならないものとします。

(i) 当社が発行者である株式等<sup>4</sup>について、当社の特定の株主の株式等保有割合<sup>5</sup>が15%<sup>6</sup>以上となる買付けその他の取得<sup>7</sup>

<sup>4</sup> 金融商品取引法第27条の23第1項に規定される「株券等」を意味するものとします。以下別段の定めがない限り同じとします。

<sup>5</sup> 金融商品取引法第27条の23第4項に規定される「株券等保有割合」を意味するものとします。以下別段の定めがない限り同じとしますが、かかる株式等保有割合の計算上、(i)同法第27条の2第7項に定義される特別関係者、(ii)当該特定の株主との間でフィナンシャル・アドバイザー契約を締結している投資銀行、証券会社その他の金融機関並びに当該特定の株主の公開買付代理人、主幹事証券会社（以下、「契約金融機関等」といいます。）、弁護士並びに会計士その他のアドバイザー、並びに(iii)上記(i)及び(ii)に該当する者から市場外の相対取引又は東京証券取引所の市場内立会外取引（ToSTNeT-1）により当社株式等を譲り受けた者は、本プランにおいては当該特定の株主の共同保有者（金融商品取引法第27条の23第5項に定義される共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされると当社取締役会が認めたる者を含みます。以下同じ）とみなします。また、かかる株式等保有割合の計算上、当社の発行済株式の総数は、当社が公表している直近の情報を参照することができるものとします。

<sup>6</sup> 本プランにおいては、その発動の基準として15%という数値基準を採用させていただくこととしておりますが、これは、①企業会計上、15%が持分法適用の有無を決する一つの基準として用いられているほか、議決権割合の1/6超(約16.7%超)という数値が、簡易合併等について株主総会での承認省略を阻止し得る数値として会社法上も重要な意義を有していること(会社法第796条第3項、会社法施行規則第197条第1号等ご参照)、②当社において、過去に、濫用的買収者と疑われる者に30%程度を取得され、訴訟対応等も生ずるなど、当社の経営に悪影響が生じた歴史的経緯があること、③今後市場内外において短期間に大量に当社株券等が買い占められるリスクは必ずしも低いものではないと思料されること、④現在、持株比率15%を超える株主が存在しておらず株が分散していること、⑤米国のライツ・プランでも15%を対抗措置の発動基準としている例が多数存在し、わが国でも15%を対抗措置の発動基準として用いている例も存在すること等々の事情を総合的に勘案した結果であります。

<sup>7</sup> 売買その他の契約に基づく株式等の引渡請求権を有すること及び金融商品取引法施行令第14条の6に規定される各取引を行うことを含みます。

- 
- (ii) 当社が発行者である株式等<sup>8</sup>について、当社の特定の株主の株式等所有割合<sup>9</sup>及びその特別関係者<sup>10</sup>の株式等所有割合の合計が15%以上となる当該株式等の買付けその他の取得<sup>11</sup>
- (iii) 上記(i)又は(ii)に規定される各行為が行われたか否かにかかわらず、当社の特定の株主が、当社の他の株主（複数である場合を含みます。以下本(iii)において同じとします。）との間で行う行為であり、かつ当該行為の結果として当該他の株主が当該特定の株主の共同保有者に該当するに至るような合意その他の行為、又は当該特定の株主と当該他の株主との間にその一方が他方を実質的に支配し若しくはそれらの者が共同ないし協調して行動する関係<sup>12</sup>を樹立する行為<sup>13</sup>（ただし、当社が発行者である株式等につき当該特定の株主と当該他の株主の株式等所有割合の合計が15%以上となるような場合に限ります。）

---

<sup>8</sup> 金融商品取引法第27条の2第1項に規定される「株券等」を意味するものとします。以下(ii)において同じとします。

<sup>9</sup> 金融商品取引法第27条の2第8項に規定される「株券等所有割合」を意味するものとします。以下別段の定めがない限り同じとします。なお、かかる株式等所有割合の計算上、当社の総議決権の数は、当社が公表している直近の情報を参照することができるものとします。

<sup>10</sup> 金融商品取引法第27条の2第7項に定義される特別関係者をいいます。ただし、同項第1号に掲げる者については、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令第2条第2項で定める者を除きます。なお、(i)共同保有者及び(ii)契約金融機関等は、本プランにおいては当該特定の株主の特別関係者とみなします。以下別段の定めがない限り同じとします。

<sup>11</sup> 買付けその他の有償の譲受け及び金融商品取引法施行令第6条第3項に規定される有償の譲受けに類するものを含みます。

<sup>12</sup> 「当該特定の株主と当該他の株主との間にその一方が他方を実質的に支配し若しくはそれらの者が共同ないし協調して行動する関係」が樹立されたか否かの判定は、新たな出資関係、業務提携関係、取引ないし契約関係、役員兼任関係、資金提供関係、信用供与関係、当社株券等の買い上げりの状況、当社株券等に係る議決権行使の状況、デリバティブや貸株等を通じた当社株式等に関する実質的な利害関係等の形成や、当該特定の株主及び当該他の株主が当社に対して直接・間接に及ぼす影響等を基礎に行うものとし、具体的には、別紙5「共同行為等認定基準」記載の基準を用いて判定されることとします。

<sup>13</sup> 本文の(iii)所定の行為がなされたか否かの判断は、当社取締役会が独立委員会の勧告に基づき合理的に行うものとします。なお、当社取締役会は、上記(iii)の要件に該当するか否かの判定に必要とされる範囲において、当社の株主に対して必要な情報の提供を求めることがあります。

---

② 意向表明書の当社への事前提出

大規模買付者には、大規模買付行為等の実行に先立ち、当社取締役会に対して、当該大規模買付者が大規模買付行為等に際して本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下、「意向表明書」といいます。）を当社の定める書式により、日本語で提出していただきます。

具体的には、意向表明書には、以下の事項を記載していただくと共に、大規模買付者が会社その他の法人である場合には、その定款、履歴事項全部証明書（又はそれらに相当するもの）並びに直近5事業年度における単体及び連結ベースでの貸借対照表及び損益計算書を、併せて提出していただきます。

(i) 大規模買付者の概要

(イ) 氏名又は名称及び住所又は所在地

(ロ) 大規模買付者が会社その他の法人である場合には、その代表者、取締役（又はそれに相当する役職。以下同じ）及び監査役（又はそれに相当する役職。以下同じ）それぞれの氏名及びその過去10年間の経歴

(ハ) 大規模買付者が会社その他の法人である場合には、その目的及び事業の内容

(ニ) 大規模買付者が会社その他の法人である場合には、その直接・間接の大株主又は大口出資者（持株割合又は出資割合上位10名）及び究極的な実質支配株主（出資者）の概要

(ホ) 国内連絡先

(ア) 大規模買付者が会社その他の法人である場合には、その設立準拠法

(ト) 主要な出資先の名称、本社所在地及び事業内容並びにそれら主要出資先に対する持株割合ないし出資割合

(ii) 大規模買付者が現に保有する当社株式等の数、及び意向表明書提出前60日間における大規模買付者の当社株式等の取引状況

---

(iii) 大規模買付者が提案する大規模買付行為等の概要（大規模買付者が大規模買付行為等により取得を予定する当社株式等の種類及び数、並びに大規模買付行為等の目的（支配権取得若しくは経営参加、純投資若しくは政策投資、大規模買付行為等の後の当社株式等の第三者への譲渡等、又は重要提案行為等<sup>14</sup>その他の目的がある場合には、その旨及び内容。なお、目的が複数ある場合にはそのすべてを記載していただきます。）を含みます。）

③ 本必要情報の提供

上記②の意向表明書をご提出いただいた場合には、大規模買付者におきましては、以下の手順に従い、当社に対して、大規模買付行為等に対する株主及び投資家の皆様のご判断並びに当社取締役会の評価・検討等のために必要かつ十分な情報（以下、「本必要情報」といいます。）を日本語で提供していただきます。

まず、当社は、大規模買付者に対して、意向表明書を提出していただいた日から10営業日<sup>15</sup>（初日不算入）以内に、当初提出していただくべき情報を記載した情報リストを上記②(i)(ホ)の国内連絡先に発送いたしますので、大規模買付者には、情報リストに従って十分な情報を当社に提出していただきます。

また、情報リストに従い大規模買付者から提供された情報では、大規模買付行為等の内容及び態様等に照らして、株主及び投資家の皆様のご判断並びに当社取締役会の評価・検討等のために不十分であると当社取締役会が合理的に判断する場合には、適宜回答期限を定めた上で、当社取締役会が別途請求する追加の情報を大規模買付者から提供していただきます。なお、本必要情報の追加提供の要求は、本必要情報の提供が十分になされたら当社取締役会が認めるまで繰り返し行うことができますが、最終の回答期限日は、本必要情報の提供が十分になされたら当社取締役会が認めない場合でも、大規模買付者が情報リストを受領した日か

---

<sup>14</sup> 金融商品取引法第27条の26第1項、金融商品取引法施行令第14条の8の2第1項、及び株券等の大量保有の状況の開示に関する内閣府令第16条に規定される重要提案行為等をいいます。以下同じとします。

<sup>15</sup> 営業日とは、行政機関の休日に関する法律第1条第1項各号に掲げる日以外の日をいいます。以下同じとします。

---

ら起算して60日を超えないものとし（ただし、大規模買付者等からの要請がある場合には、必要な範囲でこれを延長することがあります。）。

なお、大規模買付行為等の内容及び態様等にかかわらず、以下の各項目に関する情報は、原則として情報リストの一部に含まれるものとし。

- (i) 大規模買付者及びそのグループ（主要な株主又は出資者（直接であるか又は間接であるかを問いません。以下同じ）、重要な子会社・関連会社、共同保有者及び特別関係者を含み、ファンド若しくはその出資に係る事業体（日本法に基づいて設立されたものであるか外国法に基づいて設立されたものであるかを問わず、法形式の如何を問いません。以下、「ファンド等」といいます。）の場合又は買付者等が実質的に支配若しくは運用するファンド等が存する場合はその主要な組合員、出資者その他の構成員及び投資に関する助言を継続的に行っている者を含みます。以下同じ）の詳細（沿革、具体的名称、住所、設立準拠法、資本構成、出資先、出資先に対する出資割合、事業内容、財務内容、投資方針の詳細、過去10年以内における投融資活動の詳細、外国為替及び外国貿易法（以下、「外為法」といいます。）第26条第1項に規定される「外国投資家」への該当性の有無及びその根拠となる情報、並びに過去10年以内における法令違反行為の有無（及びそれが存する場合にはその概要）、並びに役員の名、過去10年間の経歴及び過去における法令違反行為の有無（及びそれが存する場合にはその概要）を含みます。）
- (ii) 大規模買付者及びそのグループの内部統制システム（グループ内部統制システムを含みます。）の具体的内容及び当該システムの実効性の有無ないし状況
- (iii) 大規模買付行為等の目的（意向表明書において開示していただいた目的の詳細）、方法及び内容（経営参画の意思の有無、大規模買付行為等の対象となる当社株式等の種類及び数、大規模買付行為等の対価の種類及び金額、大規模買付行為等の時期、関連する取引の仕組み、買付予定の当社株式等の数及び大規模買付行為等を行った後における株式等所有割合、大規模買付行為等

---

の方法の適法性、大規模買付行為等及び関連する取引の実現可能性（大規模買付行為等を一定の条件に係らしめている場合には当該条件の内容）、並びに大規模買付行為等の完了後の当社株式等の保有方針並びに当社株式等が上場廃止となる見込みがある場合にはその旨及びその理由を含みます。なお、大規模買付行為等の方法の適法性については資格を有する弁護士による意見書を併せて提出していただきます。）

- (iv) 大規模買付行為等の対価の算定根拠及びその算定経緯（算定の前提事実・仮定、算定方法、算定に用いた数値情報及び大規模買付行為等に係る一連の取引により生じることが予想されるシナジー及びディスシナジーの内容、算定の際に第三者の意見を聴取した場合における当該第三者の名称及び当該第三者に関する情報、意見の概要並びに当該意見を踏まえて金額を決定するに至った経緯を含みます。）
- (v) 大規模買付行為等の資金の裏付け（資金の提供者（実質的提供者（直接であるか間接であるかを問いません。））を含みます。）の具体的名称、調達方法、資金提供が実行されるための条件の有無及び内容、資金提供後の担保ないし誓約事項の有無及び内容、並びに関連する取引の具体的内容を含みます。）
- (vi) 大規模買付行為等に際しての第三者との間における意思連絡（当社に対する重要提案行為等を行うことに関する意思連絡を含みます。以下同じ）の有無並びに意思連絡がある場合にはその具体的な態様及び内容並びに当該第三者の概要
- (vii) 大規模買付者及びそのグループによる、当社株式等の保有状況、当社株式等又は当社若しくは当社グループの事業に関連する資産を原資産とするデリバティブその他の金融派生商品の保有状況及び契約状況、並びに当社株式等の貸株、借株及び空売り等の状況
- (viii) 大規模買付者及びそのグループが既に保有する当社株式等に関する貸借契約、担保契約、売戻契約、売買の予約その他の重要な契約又は取決め（以下、「担保契約等」といいます。）がある場合には、その契約の種類、契約

---

の相手方及び契約の対象となっている当社株式等の数量等の当該担保契約等の具体的内容

- (ix) 大規模買付者が大規模買付行為等において取得を予定する当社株式等に関し担保契約等の締結その他の第三者との間の合意の予定がある場合には、予定している合意の種類、契約の相手方及び契約の対象となっている当社株式等の数量等の当該合意の具体的内容
- (x) 大規模買付行為等の完了後に企図されている当社及び当社グループの経営方針、大規模買付行為等の完了後に派遣を予定している取締役候補の経歴その他の詳細に関する情報（当社及び当社グループの事業と同種の事業についての知識及び経験等に関する情報を含みます。）、事業計画、財務計画、資金計画、投資計画、資本政策及び配当政策等（大規模買付行為等の完了後における当社及び当社グループの資産の売却、担保提供その他の処分に関する計画を含みます。）
- (xi) 大規模買付行為等の完了後における当社及び当社グループの役員、従業員、労働組合、取引先、顧客及び地方公共団体その他の当社及び当社グループに係る利害関係者の処遇等の方針
- (xii) 大規模買付者と当社の他の株主との利益相反を回避するための具体的方策
- (xiii) 大規模買付者が濫用的買収者（下記⑤ (ii) に定義されます。）に該当しないことを誓約する旨の書面
- (xiv) 大規模買付行為等に関し適用される可能性のある外為法その他の国内外の法令等に基づく規制事項、国内外の政府又は第三者から取得すべき私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律、外為法その他の法令等に基づく承認又は許認可等の取得の可能性（なお、これらの事項については、関係する法域における資格を有する弁護士による意見書を併せて提出していただきます。）
- (xv) 大規模買付行為等の完了後における当社グループの経営に関して必要な国内外の法令等に基づく許認可の維持の可能性及び国内外の法令等の規制遵守の可能性

---

(xvi) 反社会的勢力ないしテロ関連組織との関連性の有無（直接的であるか間接的であるかを問いません。）及び関連が存在する場合にはその詳細

なお、当社取締役会は、適用ある法令等に従って、大規模買付者から大規模買付行為等の提案がなされた事実については適切に開示し、提案の概要及び本必要情報の概要その他の情報のうち株主及び投資家の皆様のご判断に必要であると認められる情報がある場合には、速やかに開示いたします。

また、当社取締役会は、大規模買付者による本必要情報の提供が十分になされたと認めた場合には、その旨を大規模買付者に通知（以下、「情報提供完了通知」といいます。）すると共に、その旨を適用ある法令等に従って速やかに開示いたします。

④ 取締役会評価期間の設定等

当社取締役会は、情報提供完了通知を行った後、その翌日を起算日として、大規模買付行為等の評価の難易度等に応じて、以下の(i)又は(ii)の期間を、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案のための期間（以下、「取締役会評価期間」といいます。）として設定し、適用ある法令等に従って速やかに開示いたします。大規模買付行為等は、本プランに別段の記載なき限り、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるべきものとします。

(i) 対価を現金（円貨）のみとする当社全株式等を対象とした公開買付けの場合には最大60日間

(ii) その他の大規模買付行為等の場合には最大90日間

ただし、上記(i)(ii)いずれにおいても、取締役会評価期間は当社取締役会が合理的に必要な事由があると認める場合に限り、延長できるものとします（延長の期間は最大30日間とします。）。その場合は、延長期間及び当該延長期間が必要とされる具体的理由を大規模買付者に通知すると共に、適用ある法令等に従って株主及び投資家の皆様に開示いたします。



---

当社取締役会は、取締役会評価期間内において、必要に応じて適宜外部専門家等の助言を得ながら、大規模買付者から提供された本必要情報を十分に評価・検討し、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上の観点から、大規模買付者による大規模買付行為等の内容の検討等を行うものとし、当社取締役会は、これらの検討等を通じて、大規模買付行為等に関する当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、大規模買付者に通知すると共に、適用ある法令等に従って適時かつ適切に株主及び投資家の皆様に開示いたします。

また、必要に応じて、大規模買付者との間で大規模買付行為等に関する条件・方法について交渉し、更に、当社取締役会として、株主及び投資家の皆様に代替案を提示することもあります。

#### ⑤ 対抗措置の発動に関する独立委員会の勧告

本プランでは、対抗措置の発動等にあたって、当社取締役会の恣意的判断を排除し、当社取締役会の判断及び対応の客観性及び合理性を確保するための機関として独立委員会（以下、「独立委員会」といいます。）を設置し、対抗措置の発動の是非等について当社取締役会への勧告を行う仕組みとしています。独立委員会は、独立委員会規程（概要については別紙2をご参照下さい。）に従い、当社社外取締役、社外監査役又は社外の有識者（実績のある会社経営者、官庁出身者、弁護士、公認会計士若しくは学識経験者又はこれらに準じる者）で、当社の業務執行を行う経営陣から独立した者のみから構成されるものとし、本プランの導入当初における独立委員会の各委員の氏名及び略歴は別紙3のとおりです。

独立委員会は、取締役会評価期間内に、上記④の当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案と並行して、以下の手続に従い、当社取締役会に対して対抗措置の発動の是非に関する勧告を行うものとし、その際、独立委員会の判断が当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上に資するようになされることを確保するために、独立委員会は、当社の費用で、当

---

社の業務執行を行う経営陣から独立した外部専門家（投資銀行、証券会社、フィナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができるものとします。なお、独立委員会が当社取締役会に対して以下の(i)又は(ii)に定める勧告をした場合には、当社取締役会は、当該勧告の事実とその概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、適用ある法令等に従って速やかに開示いたします。

(i) 大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守しない場合

独立委員会は、大規模買付者が本プランに規定する手続につきその重要な点において違反した場合で、当社取締役会がその是正を書面により当該大規模買付者に対して要求した後5営業日（初日不算入）以内に当該違反が是正されない場合には、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上のために対抗措置を発動させないことが必要であることが明白であることその他特段の事情がある場合を除き、原則として、当社取締役会に対して、対抗措置の発動を勧告します。

(ii) 大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守した場合

独立委員会は、大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守した場合には、原則として、当社取締役会に対して対抗措置の発動を行わないよう勧告します。

ただし、本プランに規定する手続が遵守されている場合であっても、例えば以下(イ)から(ル)までに掲げる事由（これらに該当する者を、以下、総称して「濫用的買収者」といいます。）により、当該買付け等が当社グループの企業価値ないし株主共同の利益を著しく損なうものであると認められかつ対抗措置の発動が相当と判断される場合には、例外的措置として、対抗措置の発動を勧告する場合があります。

- 
- (イ) 大規模買付者が真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で当社株式等を当社又は当社関係者に引き取らせる目的で当社株式等の取得を行っている又は行おうとしている者（いわゆるグリーンメイラー）であると判断される場合ないし当社株式等の取得目的が主として短期の利鞘の獲得にあると判断される場合
- (ロ) 当社の会社経営を一時的に支配して当社又は当社グループ会社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先又は顧客等の当社又は当社グループ会社の資産を当該大規模買付者又はそのグループ会社等に移転する目的で当社株式等の取得を行っているとは判断される場合
- (ハ) 当社の会社経営を支配した後、当社又は当社グループ会社の資産を当該大規模買付者又はそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する目的で、当社株式等の取得を行っているとは判断される場合
- (ニ) 当社の会社経営を一時的に支配して、当社又は当社グループ会社の事業に当面関係していない不動産、有価証券等の高額資産等を売却等により処分させ、その処分利益をもって一時的に高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って当社株式等の高値売抜けをする目的で当社株式等の取得を行っているとは判断される場合
- (ホ) 当社の経営には特に関心を示したり、関与したりすることもなく、当社株式等を取得後、様々な策を弄して、専ら短中期的に当社株式等を当社自身や第三者に転売することで売却益を獲得しようとし、最終的には当社の資産処分まで視野に入れてひたすら自らの利益を追求しようとするものであると判断される場合
- (ヘ) 大規模買付者の提案する当社株式等の買付方法が、いわゆる強圧的二段階買収（最初の買付けで当社株式等の全部の買付けを勧誘することなく、二段階目の買付条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付け等の株式等の買付け等を行うことをいいます。）等の、株主の皆様の判断の機会又は自由を制約し、事実上、株主の皆様に当社株式等の売却を強要する虞がある（いわゆる強圧性がある）と判断される場合

- 
- (ト) 大規模買付者の提案する当社株式等の買付条件（買付対価の種類及び金額、当該金額の算定根拠、その他の条件の具体的内容（当該取得の時期及び方法を含みます。））、違法性の有無並びに実現可能性等を含みますがこれらに限られません。）が、当社の本源的企業価値に照らして著しく不十分又は不適切なものであると判断される場合
  - (フ) 大規模買付者による支配権の取得により、当社株主はもとより、企業価値の源泉である顧客、従業員その他の利害関係者との関係を破壊し、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の著しい毀損が予想される等、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保又は向上を著しく妨げる虞があると判断される場合
  - (リ) 大規模買付者が支配権を取得する場合における当社グループの企業価値が、中長期的な将来の企業価値との比較において、当該大規模買付者が支配権を取得しない場合における当社グループの企業価値に比べ、著しく劣後すると判断される場合
  - (ヌ) 大規模買付者の経営陣又は主要株主若しくは出資者に反社会的勢力又はテロ関連組織と関係を有する者が含まれている場合等、大規模買付者が公序良俗の観点から当社の支配株主として著しく不適切であると判断される場合
  - (ル) その他(イ)から(ヌ)までに準じる場合で、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合

#### ⑥ 取締役会の決議

当社取締役会は、上記⑤に定める独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、当該勧告を踏まえて当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上という観点から、速やかに対抗措置の発動又は不発動その他必要な決議を行うものとし、

なお、独立委員会から対抗措置不発動の決議をすべき旨の勧告がなされた場合であっても、当社取締役会は、かかる独立委員会の勧告を最大限尊重し、当該勧

---

告に従うことにより取締役の善管注意義務に違反する虞がある等の事情があると認める場合には、対抗措置発動の決議を行い、又は不発動の決議を行わず、対抗措置を発動するか否かを株主の皆様にご質問の⑦の方法により当社株主総会を招集することができるものとします。

また、当社取締役会が対抗措置の発動を決議した後又は発動後においても、(i)大規模買付者が大規模買付行為等を中止した場合又は(ii)対抗措置を発動するか否かの判断の前提となった事実関係等に変動が生じ、かつ、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上という観点から対抗措置の発動が相当でないと考えられる状況に至った場合には、当社取締役会は、対抗措置発動の停止の決議を行うものとします。

当社取締役会は、上記の決議を行った場合には、対抗措置の発動の要否に関する当社取締役会の評価、判断及び意見を含む当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、適用ある法令等に従って速やかに開示いたします。

#### ⑦ 当社株主総会の招集

大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守しない場合、当社取締役会が本プランによる対抗措置を発動することの可否について株主の意思を確認するために当社株主総会を開催すべきと判断したときには、当社取締役会は可及的速やかに当社株主総会を招集します。また、大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守した場合であっても、当社取締役会が、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上という観点から対抗措置発動の決議を行う場合には、当社取締役会は可及的速やかに当社株主総会を招集します。これらの場合には、大規模買付行為等は、当社株主総会における対抗措置の発動議案の否決及び当該株主総会の終結後に行われるべきものとします。当該株主総会において本プランによる対抗措置の発動承認議案が可決された場合、当社取締役会は、当該大規模買付行為等に対して本プランによる対抗措置発動の決議を行うこととします。なお、当該株主総会において本プランによる対抗措置の発動承認議案が否決された

---

場合には、当該大規模買付行為等に対しては本プランによる対抗措置の発動は行われません。

当該株主総会の招集手続が執られた場合であっても、その後、当社取締役会において対抗措置不発動の決議を行った場合や、大規模買付者が本プランに規定する手続を遵守しない場合で、当社取締役会にて対抗措置の発動を決議することが相当であると判断するに至った場合には、当社は当社株主総会の招集手続を取り止めることができます。かかる決議を行った場合も、当社は、対抗措置の発動の要否に関する当社取締役会の評価、判断及び意見を含む当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、適用ある法令等に従って速やかに開示いたします。

## (2) 本プランにおける対抗措置の具体的内容

当社が本プランに基づき発動する対抗措置は、原則として新株予約権（以下、「本新株予約権」といいます。）の無償割当てとします。ただし、法令等及び当社の定款上認められるその他の対抗措置を発動することが適切と判断された場合には当該その他の対抗措置が用いられることもあり得るものとします。

本プランに基づき発動する対抗措置として本新株予約権の無償割当てを行う場合の概要は、別紙4「新株予約権無償割当ての概要」に記載のとおりとしますが、実際に本新株予約権の無償割当てをする場合には、(i)当社取締役会が所定の手続に従って定める一定の大規模買付者並びにその共同保有者及び特別関係者並びにこれらの者が実質的に支配し、これらの者と共同ないし協調して行動する者として当社取締役会が認めたる者等（以下、「例外事由該当者」といい、別紙4「新株予約権無償割当ての概要」7. に定義する者を指します。）による権利行使は認められないとの行使条件又は(ii)当社が本新株予約権の一部を取得することとするとともに、例外事由該当者以外の株主が所有する本新株予約権のみを取得することができる旨を定めた取得条項や、例外事由該当者以外の株主が所有する本新株予約権については当社普通株式を対価として取得する一方、例外事由該当者が所有する本新株予約権については一定の行使条件や取得条項が付された別の新株予約権を対価として取得する旨の取得条項等、大規模

---

買付行為等に対する対抗措置としての効果を勘案した行使期間、行使条件、取得条項等を設けることがあります。

(3) 本プランの有効期間、廃止及び変更

本プランの有効期間は、本総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。

ただし、当該有効期間の満了前であっても、当社株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランの廃止の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されるものとします。

なお、当社取締役会は、法令等の変更又はこれらの解釈・運用の変更、又は税制、裁判例等の変更に伴い合理的に必要な範囲で、随時、独立委員会の承認を得た上で、本プランを修正し、又は変更することができるものとします。他方、当社取締役会が、本プランの内容について当社株主の皆様の実質的な影響を与えるような変更を行う場合には、改めて直近で開催される株主総会に付議し株主の皆様のご承認をいただくことといたします。

当社は、本プランが廃止され又は本プランの内容について当社株主の皆様の実質的な影響を与えるような変更が行われた場合には、当該廃止又は変更の事実及び（変更の場合には）変更内容その他当社取締役会が適切と認める事項について、法令等に従って速やかに開示いたします。

### 3. 本プランの合理性

本プランは、経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しており、かつ、経済産業省に設置された企業価値研究会が2008年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」並びに東京証券取引所が有価証券上場規程の改正により2015年6月1日に導入し、2018年6月1日及び2021年6月11日にそれぞれ改

---

訂を行った「コーポレートガバナンス・コード」の「原則1－5. いわゆる買収防衛策」その他の買収防衛策に関する実務・議論を踏まえた内容となっており、高度の合理性を有するものです。

(1) 企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上の原則

本プランは、上記1. に記載のとおり、当社株式等に対する大規模買付行為等がなされた際に、当該大規模買付行為等に応じるべきか否かを株主の皆様がご判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や期間を確保し、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とするものです。

(2) 事前開示・株主意思の原則

当社は、取締役会において決議された本プランによる買収防衛策の導入を本総会において議案としてお諮りすることを、併せて当社取締役会で決議しています。また、上記2. (3)に記載したとおり、本プランは、本総会においてご承認いただいた後も、当社株主総会において選任された取締役で構成される取締役会により本プランの廃止の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されるものとしています。加えて、大規模買付者が本プランに定める手続を遵守している場合には、対抗措置の発動の決定に関して必ず株主総会を招集するものとしています。従いまして、本プランの存続には、株主の皆様のご意思が十分反映される仕組みとなっています。

(3) 必要性・相当性確保の原則

① 独立委員会の設置及びその勧告の最大限の尊重と情報開示の徹底

当社は、上記2. に記載のとおり、本プランに基づく大規模買付行為等への対抗措置の発動等に関する当社取締役会の恣意的判断を排し、当社取締役会の判断及び対応の客観性及び合理性を確保することを目的として、当社社外取締役、社外監査役又は社外の有識者（実績のある会社経営者、官庁出身者、弁護士、公認会計士若しくは学識経験者又はこれらに準じる者）で、当社の業務執行を行う経



---

営陣から独立した者のみから構成される独立委員会を設置し、当社取締役会は、対抗措置の発動又は不発動の決議に際して独立委員会の勧告を最大限尊重することとしています。また、独立委員会の判断が当社グループの企業価値ないし株主共同の利益の確保・向上に資するようになされることを確保するために、独立委員会は、当社の費用で、当社の業務執行を行う経営陣から独立した外部専門家（投資銀行、証券会社、フィナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができるものとしています。

更に、当社は、独立委員会の判断の概要について株主及び投資家の皆様に法令等に従って情報開示を行うこととし、当社グループの企業価値ないし株主共同の利益に資するよう本プランの透明な運営が行われる仕組みを確保しています。

② 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、上記2. に記載のとおり、合理的かつ客観的な発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しています。

③ デッドハンド型若しくはスローハンド型買収防衛策ではないこと

上記2. (3)に記載のとおり、本プランは、当社株主総会で選任された取締役で構成される取締役会の決議により、いつでも廃止することができるものとされています。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させても、なお発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社における取締役の任期は1年であり、当社では期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

---

#### 4. 株主及び投資家の皆様への影響等

##### (1) 本プランによる買収防衛策の導入時に株主及び投資家の皆様にご与える影響

本プランによる買収防衛策の導入に際して、本新株予約権の発行自体は行われません。従って、本プランによる買収防衛策の導入が株主の皆様の有する当社株式に係る法的権利及び経済的利益に対して直接具体的な影響を与えることはありません。

なお、上記2. (1)に記載のとおり、大規模買付者が本プランを遵守するか否か等により当該買付行為に対する当社の対応方針が異なりますので、株主及び投資家の皆様におかれましては、大規模買付者の動向にご注意下さい。

##### (2) 本新株予約権の無償割当て時に株主及び投資家の皆様にご与える影響

当社取締役会が対抗措置の発動を決定し、本新株予約権の無償割当てを行う場合には、当社取締役会が別途定める一定の日（以下、「割当て期日」といいます。）における株主名簿に記録された株主の皆様に対し、その保有する株式1株につき本新株予約権1個を上限とした割合で、本新株予約権が無償にて割り当てられます。このような仕組み上、本新株予約権の無償割当て時においても、株主の皆様が保有する当社株式1株当たりの価値の希釈化は生じるものの保有する当社株式全体の価値の希釈化は生じず、株主の皆様の有する当社株式に係る法的権利及び経済的利益に対して直接具体的な影響を与えることは想定しておりません。

ただし、例外事由該当者につきましては、この対抗措置の発動により、結果的に、法的権利又は経済的利益に何らかの影響が生じる場合があります。

なお、当社が、本新株予約権の無償割当ての決議をした場合であって、その後に対抗措置発動の停止を決定した場合には、当社株式の株価に相応の変動が生じる可能性があります。例えば、本新株予約権の無償割当てを受けるべき株主が確定した後において、当社が対抗措置の発動を停止し、本新株予約権を無償取得して新株を交付しない場合には、株主の皆様が保有する当社株式1株当たりの経済的価値の希釈化は生じないことになるため、当社株式1株当たりの経済的価値の希釈化が生じることを前提

---

にして売買を行った株主及び投資家の皆様は、株価の変動により損害を被る可能性がある点にご留意下さい。

また、本新株予約権の行使又は取得に関して差別的条件を付す場合には、当該行使又は取得に際して、例外事由該当者の法的権利、経済的利益に影響が生じることが想定されますが、この場合であっても、例外事由該当者以外の株主の皆様の有する当社株式に係る法的権利及び経済的利益に対して直接具体的な影響を与えることは想定しておりません。

### (3) 本新株予約権の無償割当てに伴う株主の皆様の手続

本新株予約権の割当て期日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様は、当該新株予約権の無償割当ての効力発生日において当然に新株予約権者となるため、申込みの手続は不要です。

また、無償割当てがなされる本新株予約権に取得条項が付され、当社が本新株予約権を取得する場合、株主の皆様は、新株予約権の行使価格相当の金銭を払い込むことなく、当社による本新株予約権の取得の対価として、当社株式を受領することになります。ただし、例外事由該当者については、その有する本新株予約権が取得の対象とならないことがあるほか、例外事由該当者の有する本新株予約権について、取得に係る本新株予約権と同数の新株予約権で一定の行使条件や取得条項が付された別の新株予約権を対価として取得することもあります。以上のほか、割当て方法、行使の方法及び当社による取得の方法、株式の交付方法等の詳細については、本新株予約権の無償割当てに関する当社取締役会の決議が行われた後、当社は、その手続の詳細に関して、適用ある法令等に基づき、適時かつ適切に開示又は通知を行いますので当該開示又は通知の内容をご確認下さい。

以 上

**当社の大株主の株式保有状況**

(2023年3月31日現在)

| 株主名                      | 当社への出資状況 |          |
|--------------------------|----------|----------|
|                          | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 2,040    | 8.14     |
| 東京海上日動火災保険株式会社           | 1,283    | 5.12     |
| 松岡冷蔵株式会社                 | 963      | 3.84     |
| 株式会社三井住友銀行               | 848      | 3.39     |
| みずほ信託銀行株式会社              | 502      | 2.00     |
| 尾道造船株式会社                 | 474      | 1.89     |
| 乾光海運株式会社                 | 471      | 1.88     |
| 乾 民治                     | 453      | 1.81     |
| 三井住友海上火災保険株式会社           | 403      | 1.61     |
| 乾 隆志                     | 376      | 1.50     |

(注) 1. 持株数は千株未満を、持株比率は小数点第3位以下を四捨五入して表示しています。

2. 当社は自己株式 (1,023,477株) を保有しておりますが、上記大株主の記載からは除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

以 上

## 独立委員会規程の概要

1. 独立委員会規程は、当社の取締役会が2023年5月12日に導入を決議した「当社株式の大規模買付行為等に関する対応策（買収防衛策）」（その後の改正、更新等を含み、以下「本プラン」という）について、対抗措置の発動等に関する当社取締役会の恣意的判断を排除し、取締役会の判断及び対応の客観性及び合理性を確保するために設置された独立委員会が従うべき手続その他の事項を定めることにより、もって、当社の中長期的な企業価値ないし株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とする。
2. 独立委員会委員は、3名以上とし、当社の経営陣から独立している、(1) 当社社外取締役、(2) 当社社外監査役、又は(3) 社外の有識者（実績のある会社経営者、官庁出身者、弁護士、公認会計士若しくは学識経験者又はこれらに準じる者）のいずれかに該当する者の中から選任するものとする。
3. 独立委員会委員の任期は、原則として、選任の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時又は別途独立委員会委員と当社が合意した日のいずれか早い日までとする。但し、当社の社外取締役又は社外監査役である独立委員会委員が当社の社外取締役又は社外監査役でなくなった場合（但し、再任された場合を除く）には、独立委員会委員としての任期も同時に終了するものとする。
4. 独立委員会は、各独立委員会委員又は当社代表取締役（代表取締役に事故その他やむを得ない事由のあるときは、取締役会が指名した取締役）が随時これを招集することができる。
5. 独立委員会委員は、互選をもって委員長を定める。
6. 独立委員会委員は、独立委員会委員毎にそれぞれ独立委員会における議決権1個を有するものとし、独立委員会における決議は、原則として独立委員会委員の全員が出席（会議電話及びテレビ電話による出席を含む）し、その全会一致をもってこれを行う。但し、独立委員会委員に事故その他やむを得ない事情があるときは、当該独立委員会委員を除く独立委員会委員全員が出席し、その全会一致をもってこれを行うことができる。

- 
7. 独立委員会は、取締役会の諮問に基づき、取締役会が予め合理的に指定する日までに、取締役会から諮問された以下の各号に記載される事項について、審議の上決議を行い、その決議の内容を、その理由及び根拠を付して当社取締役会に対して勧告するものとする。但し、独立委員会は、必要に応じて当社からの諮問事項以外につき取締役会に対し勧告することができる。
- (1) 本プランに係る対抗措置の発動の是非
  - (2) 本プランに係る対抗措置の中止又は発動の停止
  - (3) 本プランに係る対抗措置の発動に関し株主意思確認を行うこと
  - (4) 本プランの廃止又は変更
  - (5) その他本プランに関連して当社取締役会が独立委員会に諮問した事項
8. 独立委員会委員は、かかる決議にあたっては、当社の中長期的な企業価値ひいては株主共同の利益に資するか否かの観点から判断を行うことを要し、専ら自己又は当社の経営陣の個人的利益を図ることを目的としてはならない。
9. 独立委員会は、その職務の執行にあたり、必要に応じて、当社の費用で、当社取締役会及び独立委員会から独立した第三者的立場にある専門家（フィナンシャル・アドバイザー、弁護士、公認会計士、税理士等）の助言を得ること等ができる。

以 上

### 独立委員会委員の氏名及び略歴

神林 伸光（かんばやし のぶみつ）

【略歴】

1948年 5月28日生

1971年 4月 川崎重工業株式会社入社

1998年 4月 同船舶事業本部営業本部商船営業部長

2008年 4月 同常務執行役員営業推進本部長兼株式会社川崎造船取締役副社長

2010年 4月 株式会社川崎造船代表取締役社長兼川崎重工業株式会社常務取締役（非常勤）

2010年10月 川崎重工業株式会社代表取締役常務取締役 船舶海洋カンパニープレジデント

2013年 6月 同特別顧問

2015年 6月 一般財団法人日本船舶技術研究協会理事長（現任）

2016年 3月 東海カーボン株式会社社外取締役（現任）

2017年 6月 当社社外取締役（現任）

神林 伸光氏は、現在、会社法第2条第15号に規定される当社の社外取締役であり、本総会で選任議案が承認可決された場合には、当社の社外取締役として再任する予定です。

また、当社は、東京証券取引所に対して、同氏を同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

なお、同氏と当社との間に特別の利害関係はありません。

---

村上 章二（むらかみ しょうじ）

【略歴】

1956年 1 月12日生

1978年 4 月 日本郵船株式会社入社

2007年 4 月 同経営委員 物流グループ長

2007年 6 月 同経営委員兼郵船航空サービス株式会社（現郵船ロジスティクス株式会社）  
社外取締役

2008年 4 月 同経営委員兼郵船航空サービス株式会社（現郵船ロジスティクス株式会社）  
取締役執行役員

2010年10月 郵船ロジスティクス株式会社取締役執行役員

2011年 4 月 同取締役常務執行役員

2013年 4 月 同代表取締役専務執行役員

2017年 6 月 同専務執行役員

2019年 4 月 同顧問

2020年 1 月 神原ロジスティクス株式会社社外取締役（現任）

2021年 4 月 ツネイシCバリューズ株式会社顧問

2021年 6 月 当社社外取締役（現任）

2022年 1 月 ツネイシCバリューズ株式会社社外取締役（現任）

村上 章二氏は、現在、会社法第2条第15号に規定される当社の社外取締役であり、本総会で選任議案が承認可決された場合には、当社の社外取締役として再任する予定です。

また、当社は、東京証券取引所に対して、同氏を同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

なお、同氏と当社との間に特別の利害関係はありません。



---

清水 豊 (しみず ゆたか)

【略歴】

1972年 4月11日生

2001年10月 弁護士登録

2001年10月 東京丸の内法律事務所入所

2011年 1月 同事務所パートナー (現任)

2014年 7月 株式会社シバタ社外監査役

2017年12月 医療法人社団緑風会監事 (現任)

2018年12月 トライアンフィールドホールディングス株式会社社外監査役 (現任)

2020年 5月 医療法人社団頭頸部免疫栄養研究所監事 (現任)

2021年 6月 当社社外監査役 (現任)

2021年11月 医療法人社団NEXT監事 (現任)

清水 豊氏は、会社法第2条第16号に規定される当社の社外監査役です。

また、当社は、東京証券取引所に対して、同氏を同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

なお、同氏と当社との間に特別の利害関係はありません。

以 上

## **新株予約権無償割当ての概要**

1. 本新株予約権の割当総数

本新株予約権の割当総数は、本新株予約権の無償割当てに関する当社取締役会決議（以下、「本新株予約権無償割当て決議」といいます。）において当社取締役会が別途定める一定の日（以下、「割当て期日」といいます。）における当社の最終の発行済株式総数（ただし、同時点において当社の有する当社株式の数を除きます。）と同数を上限として、当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める数とします。

2. 割当対象株主

割当て期日における最終の株主名簿に記録された株主に対し、その保有する当社普通株式（ただし、同時点において、当社の有する当社株式を除きます。）1株につき1個を上限として、当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める割合で本新株予約権の無償割当てをします。

3. 本新株予約権の無償割当ての効力発生日

本新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が別途定める日とします。

4. 本新株予約権の目的である株式の種類及び数

本新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、本新株予約権1個当たりの目的である株式の数（以下、「対象株式数」といいます。）は、1株を上限として当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める数とします。ただし、当社が株式の分割又は株式の併合等を行う場合は、所要の調整を行うものとします。

- 
5. 本新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及び価格  
本新株予約権の行使に際してする出資の目的は金銭とし、本新株予約権の行使に際して出資される財産の当社普通株式1株当たりの金額は1円以上で当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める額とします。
6. 本新株予約権の譲渡制限  
本新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとします。
7. 本新株予約権の行使条件  
新株予約権の行使条件は当社取締役会において別途定めるものとします（なお、当社取締役会が所定の手続に従って定める一定の大規模買付者並びにその共同保有者及び特別関係者並びにこれらの者が実質的に支配し、これらの者と共同ないし協調して行動する者として当社取締役会が認めた者等（以下、「例外事由該当者」といいます。）による権利行使は認められないとの行使条件等、大規模買付行為等に対する対抗措置としての効果を勘案した行使条件を付すこともあり得ます。）。  
例外事由該当者とは、以下のいずれかに該当する者をいいます。
- (1) 大規模買付者
  - (2) 大規模買付者以外の共同保有者（本プランにおいて共同保有者とみなされるものを含みます。）
  - (3) 大規模買付者以外の特別関係者（本プランにおいて特別関係者とみなされるものを含みます。）
  - (4) 当社取締役会が独立委員会による勧告を踏まえて以下のいずれかに該当すると合理的に認定した者
    - ① 上記(1)から本(4)までに該当する者から当社の承認なく本新株予約権を譲り受け又は承継した者
    - ② 上記(1)から本(4)までに該当する者の「関係者」。「関係者」とは、これらの者との間にフィナンシャル・アドバイザー契約を締結している投資銀行、証券会社その他の金融機関その他これらの者と実質的利害を共通にして

---

いる者、公開買付代理人、弁護士、会計士、税理士その他アドバイザー若しくはこれらの者が実質的に支配し、又はこれらの者と共同ないし協調して行動する者をいいます。組合その他のファンドに係る「関係者」の判定においては、ファンド・マネージャーの実質的同一性その他の諸事情が勘案されます。また、「これらの者が実質的に支配し、又はこれらの者と共同ないし協調して行動する者」に該当するか否かの判断は、別紙5「共同協調行為等認定基準」記載の基準を用いて行われるものとします。

8. 当社による本新株予約権の取得

当社は、一定の事由が生じたこと又は当社取締役会が別途定める日が到来したことを条件として、取締役会の決議に従い、本新株予約権の全部又は例外事由該当事者以外の株主が保有する本新株予約権のみを取得することができる旨の取得条項や、例外事由該当事者以外の株主が所有する本新株予約権については当社普通株式を対価として取得する一方、例外事由該当事者が保有する本新株予約権については一定の行使条件や取得条項が付された別の新株予約権を対価として取得する旨の取得条項等、大規模買付行為等に対する対抗措置としての効果を勘案した取得条項等を付すことがあり得ます。

9. 対抗措置発動の停止等の場合の無償取得

当社取締役会が、対抗措置の発動を停止した場合その他本新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が別途定める場合には、当社は、本新株予約権の全部を無償にて取得することができるものとします。

10. 本新株予約権の行使期間等

本新株予約権の行使期間その他必要な事項については、当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定めるものとします。

以 上

## 共同協調行為等認定基準

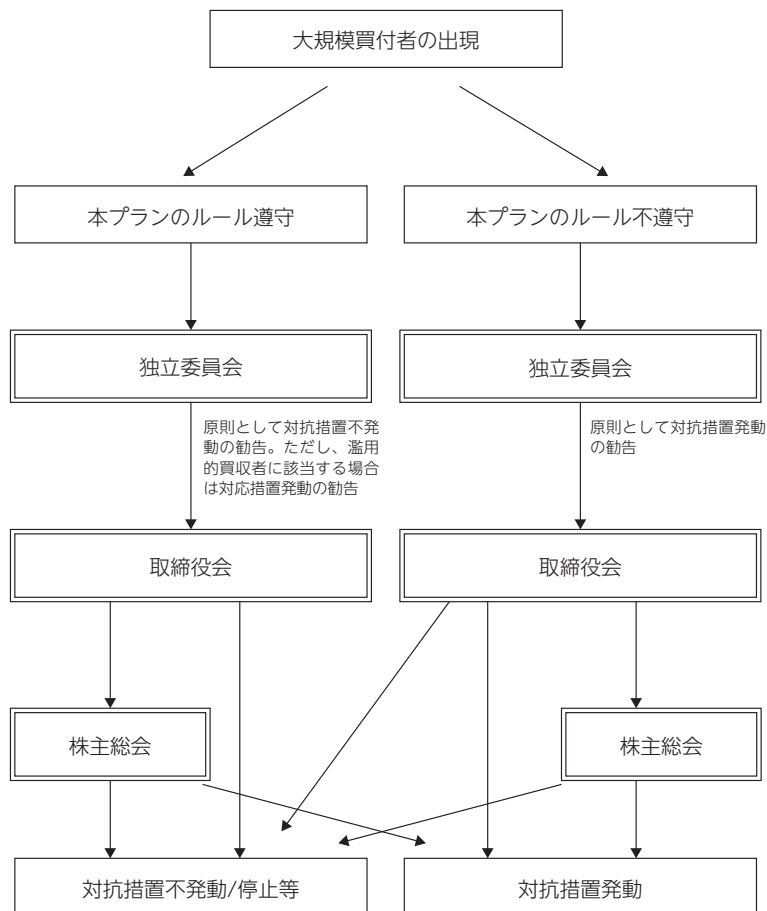
- ※ 本基準は、本総会の第4号議案として付議されている本プランで定義される大規模買付者を含む「例外事由該当者」の認定に際して、具体的には、「これらの者が実質的に支配し、これらの者と共同ないし協調して行動する者」に当たるか否かを判定するための基準として用いるものであるが、「大規模買付者」の前提となる「大規模買付行為等」の認定に際して、具体的には「当該特定の株主と当該他の株主との間にその一方が他方を実質的に支配し若しくはそれらの者が共同ないし協調して行動する関係」が樹立されたか否かを判定するための基準としても用いることとする。
  - ※ 認定は、認定の対象者（その親会社、子会社、その他認定の対象者と同一視すべき主体を含む。）について、下記の各項目のうち、原則として、下記(1)に加えて最低1つ以上の項目で関連性が認められることを条件として、下記の各項目の要素に加え、買収者との間での意思の連絡が「ない」ことを窺わせる直接・間接の事実の有無についても勘案した上で、総合判断の方法により行われるべきものとする。
  - ※ 以下「買収者」には、「買収者」の親会社又は子会社（買収者を含め、「買収者グループ」という。）、買収者グループの役員・主要株主を含むものとする。
- (1) 対象会社の株式を取得している時期が、買収者による対象会社の株式の取得又は重要提案行為等の買収に向けた行動が行われている期間と重なり合っているか
  - (2) 取得した対象会社株式の数量が相当程度の数量に達しているか
  - (3) 対象会社の株式の取得を開始した時期が、買収者による株式の取得の開始、対象会社に対する経営支配権の取得・重要提案行為をすること等の意向の表明など、買収者の買収に向けた行動が開始された時期に近接し、又は対応方針に係る議題を目的事項に含む株主総会の基準日など、買収者の行動に関連するイベントと近接しているか
  - (4) 市場における対象会社株式の取引状況が異常な時期（例えば、平均的な出来高に比して著しく出来高が膨らんでいたり、株価が先行する時期の平均株価に比して著しく急騰したりする時期）において、時期を同じくして対象会社株式を取得しているなど、買収者による対象会社の株式取得の時期及び態様（例えば、信用買い等を駆使しているかどうか）の特徴との間に共通性がみられるか
  - (5) 買収者が株式を取得している（又は取得していた）他の上場会社の株式を取得していたことがあり、かつ、その取得時期や保有期間が買収者のそれと重なり合っているか
  - (6) 上記(5)の重なり合う期間において、当該他の会社（買収者と共にその者が株主となって

- 
- いた他の上場会社) に対する株主権 (共益権) の行使が買収者のそれに同調したものであったか。同調したものであったとした場合に、その株主権の種類、内容、株主権行使の結果等に照らして、その同調の程度はどの程度か
- (7) 上記(5)記載の当該他の上場会社において、認定対象者及び買収者 (並びに認定対象者以外の者で買収者と同調して議決権等の共益権の行使を行った株主がいる場合には当該株主) による議決権等の共益権の行使の結果、取締役その他の役員を選解任が行われた場合において、当該変更後の役員の内任期間中に当該他の上場会社において企業価値又は株主価値の毀損の恐れ (例えば、重大な法令違反に該当する事象の発生又はそのおそれのある事象の発生、上場廃止、特設開示注意銘柄への指定、破産その他の法的倒産手続、大規模な希釈化を伴う株式又は新株予約権の発行) が生じているか。生じているとして企業価値又は株主価値の毀損の恐れはどの程度か
- (8) 買収者との間で、直接・間接に出資関係ないし資金の貸借関係等が存在している又は存在していたことがあるか
- (9) 買収者との間で、直接・間接に、役員兼任関係、親族関係 (内縁関係など準じる関係を含む。以下同じ)、ビジネス上の関係、出身校その他のコミュニティの中における人的関係が存在している又は存在していたこと、並びに、一方が他方の従業員、組合員その他構成員である又はあったことがあるなどの人的関係が存在するか
- (10) 対象会社に対する株主権 (共益権) の行使が買収者のそれに同調したものであったか。同調したものであったとして、行使された株主権の種類、内容、株主権行使の結果等に照らして、その同調の程度はどの程度か (なお、この(10)を唯一の根拠として「例外事由該当者」と認定してはならないものとする。)
- (11) 対象会社の事業や経営方針に関する言動等が買収者のそれと類似しているか。類似している言動等がある場合には、そのような言動等がされた時期、内容に照らして、その類似の程度はどの程度か (なお、この(11)を唯一の根拠として「例外事由該当者」と認定してはならないものとする。)
- (12) その代理人やアドバイザーが、買収者のそれと同じ事務所、法人、団体に属している若しくは属していたことがある、業務提携関係にある、同種案件を共同して遂行したことがある、及び/又は親族関係その他の人的関係があるなど、買収者との間において意思の連絡が容易となるような関係を有しているか (直接的なものであると間接的なものであるとを問わない。)
- (13) その他、買収者との間で意思の連絡があることを窺わせる直接・間接の事実はあるか

以上

(参考資料)

## 本プランの手續の流れに関する概要



※ 本図は、本プランの手續の流れに関する概要を記載したものです。詳細につきましては、本議案の本文をご参照下さい。

